

生活クラブ運動グループ 小金井地域協議会

市民による市民のための安心ネットワークづくり

《小金井・市民版地域福祉計画》 2022年度～2024年度版

《はじめに》

2018年に創立50周年を迎えた生活クラブ生協/東京は、「食の安心・安全」を手に入れるための共同購入システムから活動をスタートしました。同時に「いつの時代にも人間が人間らしく生きられる社会を創る」という社会福祉の視点を、当初より設立目的に掲げています。

この目的を実現するために、先達の組合員たちは地域の中に様々な機能や仕組みを創り出してきました。これらの活動は生活クラブ運動グループとなり、各地域では、それぞれの暮らしの課題に向き合い、共に考え、協力して解決する地域協議会が次々に発足して活動を進めています。

その経過の中で、東京における生活クラブ運動グループ総体として、福祉事業と各団体の運動推進のため2012年に連合化した「インクルーシブ事業連合」では、より安心の地域社会をつくるため、改めて地域協議会活動の重要性を確認し、2015年、「市民による市民のための安心ネットワーク構想」と、その実現に向けての活動推進を各地域協議会に提案しました。

これを機に小金井地域協議会では、30年余りの多岐にわたる活動を振り返り、地域に暮らす人々の声に耳を傾けながら、2019年度より3年間の協議を重ねて「小金井・市民版地域福祉計画」の策定を進めました。

この間には、2019年末より全世界に蔓延した「新型コロナウイルス感染」という緊急事態が発生し、策定に向けたイベントや企画が進まないこともありました。その一方で、こんな事態の中だからこそ、日々の暮らしについてあらためて気づかされたことも多々ありました。即ち、コロナ以前には自由にできていた「仕事や活動、外出、ひとと会って話すこと」などが、実は当たり前ではなく、とても貴重で大切な営みであったことを知り、それらを失った今、私たちは「自由のありがたさ」や「つながって生きること」の大切さに気づかされたのです。

ひとはひとりでは生きられない、大変な時代だからこそ、これまで以上にだれかとつながり、支え合い、たすけあって暮らす、そこに安心が生まれ、生きる力をもらうことができます。住み慣れたまちや地域で、最期まで安心して暮らしていきたいという小金井市民の思いに立ち、地域社会のあり方について、各協議会メンバーが意見を出し合い、知恵を結集して「**小金井・市民版地域福祉計画**」が策定されました。

《 小金井地域協議会 》

2021年現在、小金井地域協議会には以下の8団体が所属しています。(創設順)

・生活クラブ生協「まち・小金井」	1981年
・小金井・生活者ネットワーク	1989年
・たすけあいワーカーズ「ほっとわあく」	1993年
・配食サービス「はあとぽっと」	2002年
・水・緑・木地「エコメッセ小金井」	2016年
・ワーカーズ まちの縁がわ「わ・おん」	2016年
・地域の居場所 「かなエル・ハウス」	2019年
・小金井ACT	2020年

(* 「土ようのたまり場」 2003年～2019年まで活動)

(* ACT たま居宅支援事業所 20 ～2016年まで活動)

《まちづくりに向けたこれまでの地域協議会の主な活動》

- 2015年 3月「まちづくりワークショップ」まち・小金井 3年後のまちを描く
- 2017年 1月「自分らしく輝ける場所を見つけよう」地域協議会主催交流会
- 2017年 2月「まちづくりカフェ」(わ・おんにて) 小金井ネット主催
- 2017年 10月「おしゃべりカフェ」(ほっとわあく、はあとぽっと、わ・おん合同
働き方説明会)
- 2019年 3月「まちづくりフォーラム」ほっとわあく 25周年記念(ケアラーを支えるために)
- ” 10月「おしゃべりカフェ」(わ・おん) ほっとわあく主催(働き方説明会)
- 2020年 11月6日「第1回小金井ACT会員集会」(かなエル・ハウス)
- ” 11月9日「第2回、第3回小金井ACT会員集会」(わ・おん)
- ” 11月11日「第4回小金井ACT会員集会」(マミンカの家)

《市民版地域福祉計画づくりに向けた活動経過》

●地域協議会・各団体の目的の再確認と、現状課題、そしてこれから・・・を共有。

(別表参照)

各団体は、地域の暮らしに必要なものとして、意志ある人々の結集で創られ、様々な機能を持つ場(スペース)として、地域に存在しています。

そこに内包するものは、「情報交換・発信」、「人との交流とつながり」、「相談」や「問題解決」、さらには「自己実現」の場であることを確認し、社会的にも価値のある活動であることを共有しました。今後も事業・活動の継続と内実のさらなる充実にむけて推進します。その為にもメンバー拡大が最重要課題と考えます。

また、地域協議会として連携する事で、課題解決力がより増す事を改めて確認しました。

●市民の声を聴こう！市内の包括支援センター4地域で開催

- 2018年 3月「まちづくりカフェ第1回」 ひがし包括エリア(喫茶ウエスト)
- 2019年 10月「まちづくりカフェ第2回」 にし包括エリア(わ・おん)
- 2020年 2月23日「まちづくりカフェ第3回」 みなみ包括エリア(また明日)
- ” 2月26日「まちづくりカフェ第4回」 きた包括エリア(マミンカの家)

総合テーマ「終の棲家を考える」「私が思う最期の暮らし方」で出された意見

- お互いに助け合い、支え合う事の大切さ、有難さ。
- 医療、福祉がいかに大事なものかを知る。訪問医療・看護・介護の充実
- 地域で育てる子供達
- 健康・・・食から考える
- 共同住宅や住み替え・・・縁のある地域、入居しやすい公共施設
- 成年後見(市民後見)
- 自分のスキルを活かしたい
- 認知症でも怖くないと言えるまち

●《毎日を安心して暮らすためのキーワード》

- ◎寝る、眠る (空間と時間の確保) 住まいと健康な眠り。
- ◎食べる (自分で食べられる。誰と食べる?何を食べる?)
- ◎動く、はたらく (歩ける、出かける場所、活動する場所、何かの役に立つことがある)
- ◎話す (ひとと会う、誰かとつながる、触れ合う、認め合う)

眠る (住まい)	共同住宅や居住支援のしくみ 健康な眠り
食べる	配食サービス、子ども食堂、いっしょにご飯 移動マーケット、お届けデポ、お隣さんでおすそ分け 安心の食材
動く	移動支援、介護タクシー
はたらく	誰かの役に立つ、生きがい、やりがい、共に働く・・・働き場づくり 地域の課題を働くを通じて解決 (ワーカーズ) 働きの正当な評価。金銭だけではない対価。
話す・コミュニケーション	人と会う、集う、つながる。様々な居場所 (ケアラズカフェや認知症カフェ、子育てママ・パパカフェ、高齢者の居場所、中高生の居場所)
見守り合う	見守りサポート (出前型、おたすけコール)
介護・医療・看護 自分らしさを最後まで	専門相談、訪問医療・看護・訪問介護 市民後見人、ターミナルケア

《市民版 地域福祉計画 2022年度～2024年度》

誰もが 自分らしく 安心して暮らし続けられるまちに！

＊一人ぼっちにしない・たすけあう・共に生きる、地域づくりをすすめます。

生まれてから死ぬまで、すべての人々が公平、平等に健康で幸せな毎日を送れるような社会を目指し、地域の資源や、公的な機関とも連携して、私たち市民の力で更なるしくみを創り、まちのセーフティネットを広げます。

■《居場所》をもっと創ろう！

《居場所の持ったくさんの価値》

＊誰かと出会うことができる事

＊誰かと話す事は健康上の効果大

＊誰かと思いや価値観の共有ができ安心につながる。また、自分とは違うもう一つの価値観を持つ人に出会うことができ、思考の拡がりになる。

＊困りごとの解決につながり、気軽に「助けて」といえる場。

～今日行くところ、そして、今日やる事がある～500メートルに1つ何かがあると良い！

●様々な当事者(子育てから高齢者まで様々)が参加できる【場】を、空き家・住み開きなどを活用して開きます。

■「食」を通じた安心のしくみづくり

人が生きるうえでの必須要件としての食の充実です。

社会的課題としての食の安全性への不安、格差の増大など特に次世代の健康には不安があります。食を通じて地域での繋がりを実践してきた「はあとぽっと」や「わ・おん」の活動をさらに進めるとともに、社会的な新たな課題解決にむけ検討します。

- ニーズ・現状調査(社会的貧困・経済的諸課題など)を行い、活動を創ります。

■介護が必要になっても、認知症になっても、地域で支え合うしくみ

介護保険制度が2000年に施行され21年経過の今、高齢者の独居世帯・老老世帯の増加、認知症の予想どおりの増加、そして介護する家族の負担の増加など、まだまだ介護の社会化は途上です。各種公的制度の充実はもとより、地域で見守り・困ったときは助けてくれる関係づくりをすすめます。

- 頼りになる相談の場でもある、運動グループとしてのケアマネ(居宅介護支援員)事業所を創ります。

地域ではケアマネの不足も課題となっています。小金井では残念ながら2016年より運動グループとしてのACTケアマネ事業所が無くなり、再創設をあらためて目標に掲げます。

- 市民が担う成年後見(市民後見)事業を進めます。

ACTの成年後見事業活動グループを地域に創ります。

■働く場の創出

地域の課題を「働く」を通じて解決していくワーカーズコレクティブや市民事業として、地域での働く場づくりの有効性は、これまでの運動グループの活動を通じて確認できます。

- 社会的には様々な意味での働きずらさを持つ方たちとの「ともに働く」あり方構築も一つの課題としてあります。これまでの実績(エコメッセ、わ・おん、はあとぽっと、ほっとわあく)での課題整理を 行い追求します。
- また、更なるワーカーズ創設に向けても、地域課題・ニーズを調査する事から始めます。

■安心の住まい

超高齢社会の中で、高齢者の独居、老老世帯の割合が高くなっています。施設選択だけでなく、安心を担保する「共に暮らす」住まいの在り方を、空き家活用なども含め、テーマとして掲げ、模索します。

■事務局機能の創設

掲げた地域福祉計画の実行のみならず、地域協議会の活動をより推進するためにも事務局機能の設置を検討します。

《 おわりに 》

2019年に市政60周年を迎え、自然と湧水に恵まれた美しいまち小金井は、その豊かな環境と平穏な市民生活を守り、次世代の子どもたちにつないでいく市政を、これからも変わることなく継続する必要があります。その為にも、これまで以上に市民がしっかりと当事者意識を持ち、自分たちができる事は実行しながらまちづくりに参加していく事が重要です。

コロナワクチン接種率(65歳以上の高齢者対象)が多摩きた地域26市の中でトップという実績をあげている小金井市は、大病院を持たない中、医療現場の医師、看護師の方々の速い対応、準備、密な連携が効果に繋がっているそうです。感染を防止するマスクの着用は未だ不可欠であり、飲食もままならず、自由に行き来し、家族や友人と楽しく語り合うこともできない状態が続いていますが、コロナ禍が収束し平穏な日常に戻る日のためにも、みんなで手を携えて、今を元気に生き抜きましょう！

2022年 2月 末日 小金井・地域協議会

2017年1月「自分らしく輝ける場所を見つけよう」



2019年3月 ほっとわあく 25周年記念講演



2020年2月23日 まちづくりカフェ in「また明日」

2020年2月26日まちづくりカフェ in「マミンカ」

2018年 3月 まちづくりカフェ in「ウエスト」

(同左)



《 おまけ 》

(市民版地域福祉計画の策定にあたって、大変参考になりました。)

❖「高齢社会をよくする女性の会」理事長として、89歳の今もなお第一線で活躍し、日本の高齢化社会にユーモアあふれる発信を続けている評論家 樋口恵子さんの言葉を引用させていただきます。『老〜い、どん！あなたにも「ヨタヘ口期」がやってくる』(2019年 婦人之友社)などの著書に綴られた示唆に富んだキーワードです。

《大切な3つの「ショク」》

健康寿命と平均寿命の間のおよそ10年間の「ヨタヘ口期」、心と体の変化におののきながらも、その時期を自立して楽しく生き抜くために大切な3つの「ショク」とは、

- ①「食」：しっかり食べることは生きる基本（「調理定年」を迎えても）
- ②「触」：コミュニケーション。顔を見合わせながら、語り合える仲間作り。
- ③「職」：高齢でもみんなで助け合いながら、地域や社会に役立つ働き方をする。

小金井生活クラブ運動グループ地域協議会「市民版地域福祉計画」

<実行計画> 2022年度～2024年度

地域協議会資料 2022. 2. 16

	具体的に考えられる事項、こんな事があったら・できたら良いかも。	左記の事項で、自分の団体に関わる事、主体的に出来そうなこと。(協力・連携で推進)	左記の団体の活動への協力体制は勿論あり。特に地域協議会として活動テーマとする事項
○居場所をもっと創ろう	*若者、子育て真っ最中の親など気軽に集える場 *高齢になっても自分が役に立つ場、行きたい場	各団体 ⇒居場所空間として設定できる事をやってみる。(すでに展開しているところはより充実・より広げる、お互いに協力) 生ク ⇒コミュニティの数を1年度あたり1つ増やしていく	ワーカーズまちの縁がわを、南地域に新たに創る。 2022年度：地域調査→ 意志ある人を募る
○食を通した安心のしくみづくり	*いっしょにご飯 *フードバンク	かなエル・ハウス ⇒(存続が大前提であるが)一緒にご飯	
○介護が必要になっても認知症になっても地域で支え合うしくみづくり	*相談の場 *市民後見 *見守りのしくみ *おたすけ隊	各団体 ⇒認知症サポーター養成講座をやってみる 小金井 ACT ⇒ (ACT) 成年後見メンバーの複数化や会員相互の見守りグループ構想	ケアマネ事業所 (ACT 人とまちづくり) の創設 2022年度:「意志ある人」見つけ～
○働く場の創出	*ハンディがあっても、ともに働く場	既存のワーカーズやエコメッセ各団体が模索	
○安心の住まい	*各種サービスのフル活用で一人でも在宅で。 *共に暮らす協同の家		次期の検討事項
○事務局機能づくり			2022年度から検討開始

生活クラブ

- ① 助け合い・・・いざという時の助け合いができるコミュニティを創る
- ② 活躍の場・・・地域に出会いの場を作り高齢になっても安心して活躍できるまちづくり
- ③ 衣食・・・買い物難民にならず最期まで自宅で過ごせるために、食材や生活用品を玄関まで運ぶ「生協の宅配を利用した暮らし」の提案をする
- ④ 地域情報の共有・・・公共施設などを会場に、誰でも集える、試食会・防災講座・ライフプラン講座などを開き、新しく正しい情報の共有をする

* 便利になった反面、組合員同士の関わりが薄くなった。
* キャラバンなどへの市民の参加が増えまた、テレビ放映などにより加入が進んだ
生活クラブの理念や組織を理解している組合員が少ない。
* パソコン必須の委員会活動の課題。誰でも参加可能な活動にならない。分担しにくい。

* 1200人の組合員の力の結集の可能性
* 若い組合員の活躍の場を増や

ほっとわあく

だれもが安心して住み慣れた町で暮らし続けることができるために、市民相互のたすけあいのしくみづくり

ワーカーズコレクティブという働き方の提案(地域の課題を事業として展開、共同出資運営)

* メンバーの高齢化、
* 公的なしくみの限界や狭間で困っている市民の支援のしくみづくり
* メンバー不足(多い需要)・・・事業の特性からくる不安定な収入をどうフォローするか？

* ベテランメンバーがこれまで培ってきたスキルを活かす活動の場づくり
* 公的制度の限界・狭間を埋める活動

はあとぽっと

健康に自分らしく暮らし続けるための「食」の持つ重要性を提案
制度の限界や狭間を埋めるだけでなく食を通じた地域での相互援助のシステムづくり(安否確認・困ったの相談?)。食の安全・街の台所に。
ワーカーズコレクティブの提案

* 広報不足による利用拡大ができない。さまざまなニーズへの対応可能なアピール。
* 事業の安定を追求で、働く人が集りやすく。

* 子供の食環境への対応
他団体との連携で子供食堂なども
* まちの台所機能の拡充

これまでの成果

● 様々な機能を持つ
場(スペース)を創ってきた。

- * 情報の発信・交流
- * 人との交流・繋がる
- * 問題解決の場
- * 自己実現の場
- *

● 連携でさらに問題解決力アップ?

● 社会的課題・テーマ

- * 高齢化社会(地域包括ケアシステム
高齢者世帯(独居も含め)の増加
認知症の増加
5080 問題
引きこもり
家族介護者の課題
介護職の不足(ケアマネ・ヘルパー
医療課題
住まい

* 子供が健やかに育つ権利

- ・ 格差の拡大
- ・ 貧困の連鎖
- ・ 教育政策
- ・ 健康

● 市民の声「まちづくりカフェ」活動での声

- * 地域で育てる子供達・・・
- * 情報交換やよりアクセスしやすい情報をとれる工夫
- * 健康・・・食
- * 訪問医療・看護・介護の充実
- * 共同住宅や住み替え・縁のある地域、入居しやすい公的施設
- * 成年後見(市民後見)
- * 自分のスキルを活かしたい
- * 認知症でも怖くないといえる街

生活者ネットワーク

市民と行政のパイプ約。様ざまな情報提供・・・政策化へ

エコメッセ

リサイクルから再利用の推進へ
経済効率優先のマネー社会からもの交換たすけあいで生まれる新たな地域経済のしくみづくり
社会への一歩踏み出し・やり直しの思いを支援

関係団体との連携活動で
高齢者の遺品整理
職場体験の場の提供
地域通貨

市民に情報を伝えられない
連携で暮らし支援を拡げる

わ・おん

居場所・生活支援サービス・相談の機能を内包した安心の居場所活動。緩やかな「はたらく」場

カフェ事業・スペース利用・相談機能の充実
地域協議会の活動拠点

メンバー不足
広報活動充実・利用拡大

かなエル・ハウス

誰かと繋がり、自分の夢をかなえる一歩

居場所・活動の場提供

小金井 ACT

会員相互の緩やかな繋がりづくりから、更なる安心のしくみ創り